

～思わぬ手に取りたくなるタイトル～



バスタブで暮らす

四季大雅/著

2023年
小学館 ガガガ文庫

わたしは磯原めだか、二十二歳女子。福島県郡山市出身。ちいさく生まれてちいさく育ち、欲望らしい欲望もほとんどない。世間とのずれに生きづらさを感じつつも、ゆかいな家族に支えられてきたのだけれど、就職で実家を離れることに。

けれど、上司のパワハラに耐えかね、心も病んで結局すぐにとんぼ返り。逃げ込むように、こころ落ち着くバスタブのなかで暮らし始めました。それなりに楽しい毎日だけれど、やっぱりそのまま、めでたしめでたし、というわけにはいかなくて…。



好きです、 死んでください

中村 あき/著

2023年
双葉社

無人島のコテージに滞在する男女の恋模様を放送する、恋愛リアリティーショー「クローズド・カップル」の撮影が始まった。

俳優、小説家、グラビアアイドルなど、様々な業種から集められた出演者は交流を深めていくが、撮影期間中に出演者である人気女優・松浦花火が死体となって見つかった。

事件現場の部屋は密室状態で、本土と隔離された島にいたのは出演者とスタッフをあわせて八人のみ。一体誰がどうやって殺したのか？ そして彼女の死は、新たな惨劇を生み出して――。



小説
たった今考えたプロポーズ
の言葉を君に捧ぐよ。

daipo/原作
更伊俊介、関根パン、藤崎珠里/著
moffmachi/イラスト

2023年
KADOKAWA



楽園とは
探偵の不在なり

斜線堂 有紀/著

2020年
早川書房

プロポーズ！ それは最愛の人へ向けた心からの叫び。成功すれば最高の幸せをつかみ、失敗すれば地獄を見ることになる……。

この小説は、そんな人生の大勝負に挑む者たちの一部始終を記録した、プロポーズ短編集である！

ゲスト作家としてYoutubeやニコニコ動画で活躍中のニコライ・ボルコフも参加！

「ゲームマーケット大賞2018優秀作品賞」

「第2回日本アナログゲームゲームカフェ大賞第1位」の大人気パーティーゲームのノベライズ本。

二人以上殺した者は”天使”によって即座に地獄に引き摺り込まれるようになった世界。

細々と探偵業を営む青岸焦(あおぎしこがれ)は「天国が存在するか知りたくないか」という大富豪・常木王凱(つねきおうがい)に誘われ、天使が集まる常世島(とこよじま)を訪れる。そこで青岸を待っていたのは、起きるはずのない連続殺人事件だった。

『私が大好きな小説家を殺すまで』『恋に至る病』の俊英が挑む、渾身の本格ミステリ。



生まれてきて ごめんなさい定食

村崎 鞆諦/著

2023年

ポプラ社 ポプラ文庫ピュアフル

5分で読める！
世にも奇妙なグルメ短編集。

ふらっと立ち寄った定食屋にあった『生まれてきてごめんなさい定食』。どんな定食なんですかと店員に尋ねたら……？ 日常の一幕ににじむ人生の片鱗は——？（「生まれてきてごめんなさい定食」）

予想外のところからやってきてどこに着地するかわからない。脳内が混乱してなぜか癖になる——。そんな病みつきグルメを召し上がれ。



彼女が好きなものは
ホモであって僕ではない

浅原 ナオト/著
新井 陽次郎/イラスト

2020年

KADOKAWA 角川文庫

繋がれない僕らは、
それでも、あたりまえの幸せを手に入れたい。

同性愛者であることを隠して日々を過ごす高校生・安藤純は、BL(ボーイズ・ラブ)好きの同級生・三浦紗枝の告白を受け入れ、付き合うことに。しかし、純には身体を許す既婚の中年男性のパートナーがいて…。

純、紗枝を応援するクラスメイト、唯一純の苦悩を受け入れ共有してくれるネット上の友人「ミスター・ファーレンハイト」…周囲との軋轢の中、すれ違う二人が導き出した理想の関係とは？



私はあなたの 瞳の林檎

舞城 王太郎/著

2018年
講談社

ずっと好きで好きで仕方がない初恋の女の子。僕の告白はいつだって笑ってかわされる。でも、今好きなものを次なんて探せない！（「私はあなたの瞳の林檎」）。

いいものは分かる、けど作れない。凡人な美大生の私が、天才くんに恋しちゃった！憧れの人と付き合う楽しさと苦しさを描く（「ほにやららサラダ」）。

思春期のあのころ誰もが直面した壁に、恋のパワーで挑む甘酸っぱすぎる作品集。



おまえのすべてが 燃え上がる

竹宮 ゆゆこ/著

2017年
新潮社 新潮文庫 nex

樺島信濃（かばしましなの）は、逃げていた。誰から？ 包丁を持った女から。なぜ？ 愛人であることがバレたから。逃げて、逃げて、逃げて。今はスポーツジムのアルバイト。けれど、給料では生活費すら賄えず、貢がれたブランド品を売って、なんとか暮らす二十六歳の日々。これではダメだ。わかっている。でも。そんなある日、弟が元恋人とやってきて……。

愛とは。家族とは。切なさ極まる長篇小説。

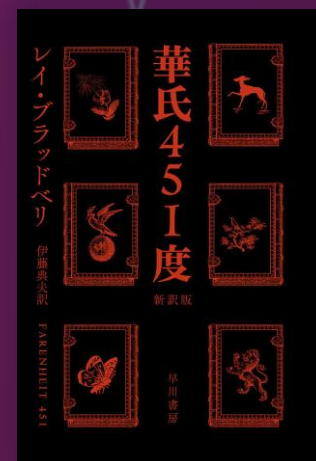
NO
IMAGE



不死身のつもりの 流れ星

最果タヒ/著

2023年
PARCO出版



華氏451度 (新訳版)

レイ・ブラッドベリ/著
伊藤 典夫/訳

2014年
早川書房 ハヤカワ文庫SF

「われわれはこの距離を守るべく生まれた、
夜のために在る6等星なのです。」

体験する詩の展覧会という新しい表現で日
本中を席卷した詩たちが1冊に集結！

2020-2022年に福岡・渋谷・名古屋・心齋
橋・仙台で行われた最果タヒ展「われわれは
この距離を守るべく生まれた、夜のために在
る6等星なのです。」の発表作品を収録。
さらに書き下ろし新作を加えた全42篇。

華氏451度—この温度で書物の紙は引火し、
そして燃える。

451と刻印されたヘルメットをかぶり、
昇火器の炎で隠匿されていた書物を焼き尽く
す男たち。モンターグも自らの仕事に誇りを
持つ、そうした昇火士のひとりだった。

だがある晩、風変わりな少女とであってか
ら、彼の人生は劇的に変わってゆく…。本が
忌むべき禁制品となった未来を舞台に、SF
界きっての抒情詩人が現代文明を鋭く風刺し
た不朽の名作、新訳で登場！



毒母の息子カフェ

尾道 理子/著

2020年
KADOKAWA 角川文庫

1歳の時に母を亡くし、父と二人暮らしの祠堂雅玖は、受験に失敗し絶望する。希望ではない大学に入るもなじめず、偶然訪れたカフェで、女装姿の美青年オーナー、土久保霸人に誘われ住み込みバイトを始める。

一筋縄ではいかない個性を持つ店員達に戸惑いながらも、少しずつ心を開く雅玖。仲間達に背中を押され、必死に探し求めた母の真の姿は、雅玖の想像とはまるで違っていて…。絆で結ばれた息子達の成長ストーリー！



今夜も カネで解決だ

ジェーン・スー/著

2017年
朝日新聞出版

稼いで、疲れて、使って、稼ぐ——。
著者自身が「いったい幾ら使ったんだ。」と途方に暮れるほどのマッサージ遍歴と、体を預ける一期一会のセラピストたちの心持ちや技術への感謝や敬意、同じ働く女性としての共感がこめられた、現代社会を洞察する一冊。AERA人気連載の書籍化。

誰かに触れてもらうことで癒される体と心がここにある。いざ行かん、地上の楽園へ！
疲れた体と凹んだ心を抱え、今日も街を彷徨う。ジェーン・スーの読むマッサージ！



レモンケーキの 独特なさびしさ

エイミー・ベンダー/著
菅 啓次郎/訳

2016年
KADOKAWA

9歳の誕生日、母がはりきって作ってくれたレモンケーキをひと口食べた瞬間、ローズは説明のつかない奇妙な味を感じた。不在、飢え、渦、空しさ。それは認めたくない母の感情、母の内側にあるもの。

以来、食べるとそれを作った人の感情がたちまちわかる能力を得たローズ。魔法のような、けれど恐ろしくもあるその才能を誰にも言うことなく—中学生の兄ジョゼフとそのただ一人の友人、ジョージを除いて—ローズは成長してゆく。

生のひりつくような痛みと美しさを描く、愛と喪失と希望の物語。



夜が暗いとは かぎらない

寺地 はるな/著

2019年
ポプラ社

奇跡が起きなくても、
人生は続いていくから。

大阪市近郊にある暁町。閉店が決まった「あかつきマーケット」のマスコット・あかつきんが突然失踪した。かと思いきや、町のあちこちに出没し、人助けをしているという。いったいなぜ——？

さまざまな葛藤を抱えながら今日も頑張る人たちに寄りそう、心にやさしい明かりをともす13の物語。



妻が椎茸だったころ

中島京子/著

2013年
講談社

オレゴンの片田舎で出会った老婦人が、禁断の愛を語る「リズ・イエセンスカのゆるされざる新鮮な出会い」。

暮らしている部屋まで知っている彼に、恋人が出来た。ほろ苦い思いを描いた「ラフレッシュアナ」。

先に逝った妻がレシピ帳に残した言葉が、夫婦の記憶の扉を開く「妻が椎茸だったころ」。

「人」への執着、「花」への妄想、「石」への煩惱…ちょっと怖くて愛おしい五つの『偏愛』短篇集。



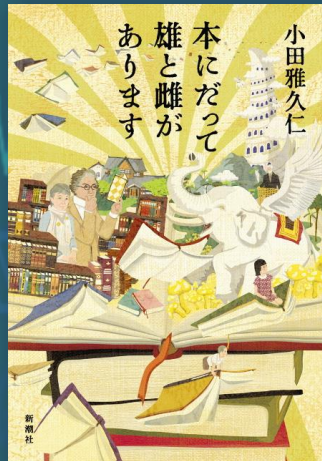
春にして君を離れ

アガサ・クリスティー/著
中村 妙子/訳

2004年 早川書房
ハヤカワ文庫(クリスティー文庫)

優しい夫、よき子供に恵まれ、女は理想の家庭を築き上げたことに満ち足りていた。が、娘の病氣見舞いを終えてバグダッドからイギリスへ帰る途中で出会った友人との会話から、それまでの親子関係、夫婦の愛情に疑問を抱きはじめる……。

女の愛の迷いを冷たく見据え、繊細かつ流麗に描いたロマンチック・サスペンス。



本にだって
雄と雌があります
小田 雅久仁/著

2012年
新潮社

旧家の書齋に響く奇妙な羽音。
そこでは本たちが「結婚」していた！

深井家には禁忌(タブー)があった。本棚の本の位置を決して変えてはいけない。九歳の少年が何気なくその掟を破ったとき、書物と書物とが交わって、新しい書物が生まれてしまった——！

昭和の大阪で起こった幸福な奇跡を皮切りに、明治から現代、そして未来へ続く父子四代の悲劇&喜劇を饒舌に語りたおすマジックリアリズム長編。



いつか別れる。
でもそれは今日ではない
F/著

2017年
KADOKAWA

真夜中が、寂しくてよかった。
なにかに悩んだり、なぜか眠れない一人の夜、ふと読みたくなる一冊。

どんなに好きなものも、愛している人も、いつか別れてしまう。なんどでもそのことを忘れてしまう。だから、なんどでも思い出さないといけない。

X(旧Twitter)フォロワー数13万人超の「F」がつぶぐ、寂しいと言えなくなったすべての大人のためのエッセイ。